

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/01/04号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



(注) 2021/09/12まではWTI原油価格連動型上場投信のデータ (出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

リスクオンと在庫減少で安値修正が続く

NY原油先物相場は、1バレル=75ドル前半で越年した。「オミクロン」の感染拡大に対する警戒感が広がらず、投資家のリスク選好性が維持される中、年末に向けて安値修正の動きが維持された。米原油在庫の減少傾向が続き、北半球で寒波が本格化する中、短期需給のひっ迫環境が再評価されたこともポジティブ。ドル安の支援もあって期近限月主導で買いが膨らみ、12月30日高値は77.44ドルに達している。年末に向けて短期筋の利食い売りが上値を抑えたが、75ドルの節目は維持した。

2021年の原油相場は前年比26.69ドル高 (55.0%高) となった。年末時点の価格水準として75.21ドルは13年以来の高値になる。年間高値 (85.41ドル)、安値 (47.18ドル) とともに14年以来の高値であり、価格水準全体が大きく切り上がった。パンデミックは続いているが、需要環境の急激な回復、石油輸出国機構 (OPEC) プラスの需給管理成功、シェールオイルなどOPECプラス以外の増産圧力が限定されたことが、世界的な在庫取り崩しを促し、原油相場を大きく押し上げた1年になった。

米エネルギー情報局 (EIA) 発表の米石油在庫 (12月24日時点) は、原油が前週比358万バレル減、ガソリンが146万バレル減、石油精製品が173万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

リスクオン環境維持なら堅調地合、OPECプラス会合に注意

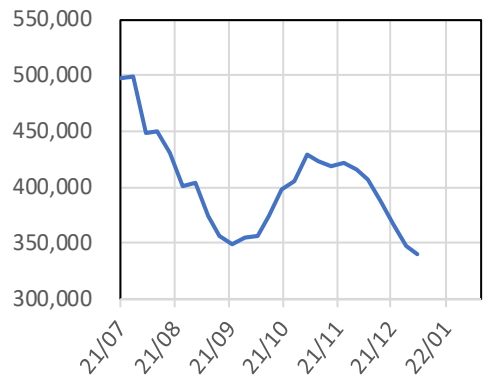
「オミクロン」の感染は拡大し続けているが、石油需要環境に対する影響は軽微かつ短期的との評価が維持されると、上値追いの展開も維持される。年初で投資家のリスク選好性が維持されると、80ドルの節目に接近する展開が想定できる。1月4日にOPECプラス閣僚級会合が開催されるが、原油相場に対する影響は限定される見通し。

OPECプラス会合が年初の最初のイベントになるが、従来通りに日量40万バレルの増産対応が合意される可能性が高い。消費国の備蓄放出、2022年上期の需給緩和見通しといった増産リスクを高める動きもみられるが、70ドル台の価格水準で政策調整が急がれることはないだろう。ロシアのノバク副首相は65～80ドルの居心地が良いと発言しており、政策調整の必要性が高まっているとは言い難い。

短期目線では、北半球の寒波の影響もあって在庫にタイト感が目立つこと、リスクオンの投資環境を背景に、期近限月主導の堅調地合が想定され易い。1月4日の12月米ISM製造業指数、5日の米週間需給統計、7日の12月米雇用統計などもイベントリスクになるが、期近限月のプレミアムが大きく剥落するような展開にはならないだろう。株高環境が維持されると、押し目買い優勢の展開になる見通し。

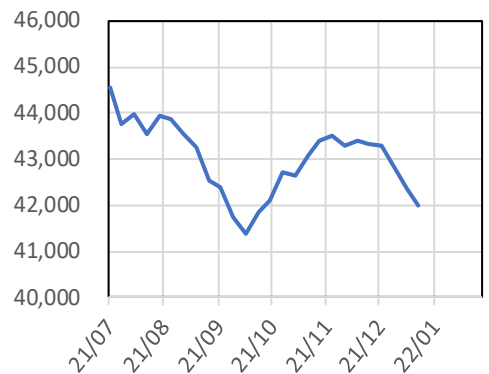
ただ、供給「不足」から供給「過剰」への転換期は着実に近づいており、特に寒波が一服すると需給の緩みに対する警戒感が一気に高まる可能性がある。短期での安値修正の目線に留めておく必要がある。安値からは大きく切り返しているが、積極的に上値を買い進まれている訳ではなく、「オミクロン」に対する過剰反応を是正する動きが中心になっている。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



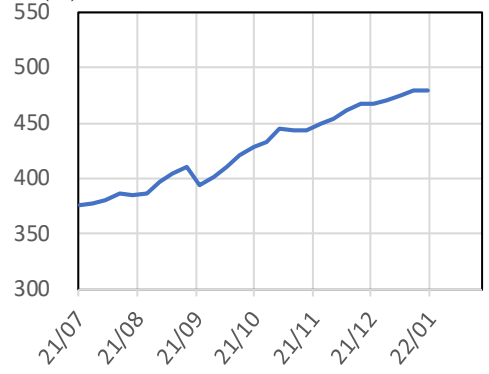
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

